

設備工事情報シート	電 気	Ⅱ－E－1	制 定	2006年4月1日
			改 訂	2014年2月1日
Ⅱ．メーカー情報	接着式ケーブル支持具		ネグロス電工編	

1. 目的・概要

ケーブル配線工事において、配線ルートの変更や追加などに対応できるよう接着式ケーブル支持具での施工が増えている。接着式ケーブル支持具の特性を十分に認識し施工する必要がある。

また、発泡断熱材壁面部のケーブル配線も施工状況に応じて適切に施工する必要がある。

以下に、ネグロス電工(株)の接着式ケーブル支持具及び発泡断熱材用ケーブル支持具を紹介する。

2. 接着剤式ケーブル支持具

(1) 種類及び施工手順

許容静荷重 19N [2kgf]

許容静荷重 39N [4kgf]
(片側19N [2kgf])

許容静荷重 39N [4kgf]
(片側19N [2kgf])

推奨ケーブル本数：
1.6・2.0×2C 各4回線まで
1.6・2.0×3C (片側)

※許容静荷重は専用接着剤を使用した場合。

①接着剤を裏面枠内(片側1g)を目安に塗布する。

②接着剤が周りからはみ出るまで接着面に押し付ける。

③接着剤硬化後、結束バンドでケーブルを支持する。結束バンドを5回転以上ねじる。
※約60分で硬化する。(温度23℃、湿度50%)

※半分になり離して使用できる。

【専用接着剤】

シリル化ウレタン系接着剤(無溶剤)
容量：333mℓ (約460g)

※接着剤塗布後、2分以内に貼り付けること。
※容器に記載されている注意事項を守って使用すること。
※開封後、一時保管する場合はノズル先端をビニルテープ等で密栓すること。

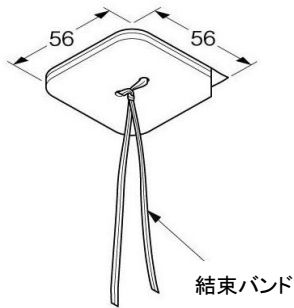
(2) 注意事項

- ①接着面の油分、水分及びホコリを十分に取り除いてから貼り付ける。
- ②専用接着剤を使用した場合の硬化時間及び許容静荷重は、作業環境、接着面の状態により異なる。十分に接着したことを確認の上、ケーブル配線を行うこと。
- ③ケーブル支持点間距離は、電気設備の技術基準の解釈第164条及び内線規程3165節に準じること。
- ④弱電流電線が雑音等により悪影響を受ける恐れがある場合には、弱電流電線にシールドケーブルを使用する等の適切な方法で配線すること。
- ⑤適合場所は紫外線のあたらない屋内。

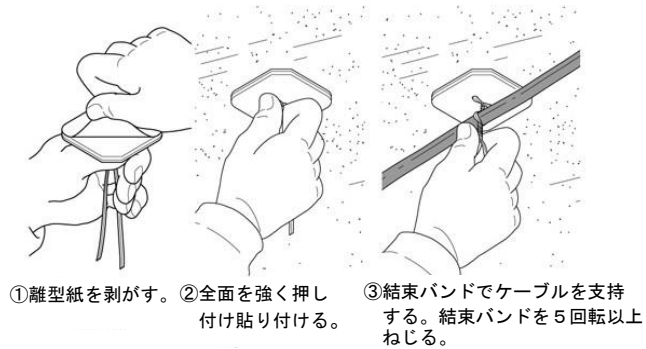
資 料

3. 粘着テープ式ケーブル支持具

(1) 種類及び施工手順



許容静荷重19N[2kgf]
※接着面の状態により異なる。



(2) 注意事項

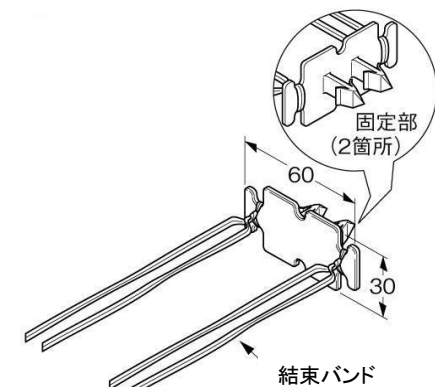
- ① ケーブルの仮止め用として使用する製品で、恒久的な支持には使用しないこと。
- ② 接着面の油分、水分及びホコリを十分に取り除いてから貼り付ける。
- ③ 寒冷時には少しあたためてから使用する。
- ④ 適合場所は紫外線のあたらない屋内。
- ⑤ 直射日光を避け、乾燥した場所で保管すること。

4. 発泡断熱材用ケーブル保持具

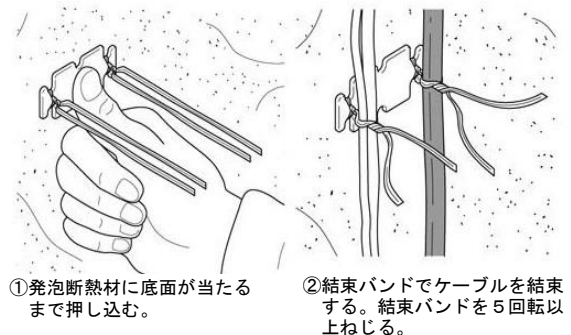
(1) 種類及び施工手順

発泡断熱材屈曲・壁面用（適合発泡断熱材厚：20mm以上）

許容静荷重9N[1kgf]
片側4N[0.5kgf]
※発泡断熱材の密度30kg/m³の場合



本体材質：ポリプロピレン
色：グレー
板厚：2mm



(2) 注意事項

- ① 発泡断熱材密度30kg/m³以下では使用しないこと。
- ② 施工後にケーブルを引っ張らないこと。
- ③ 天井面には使用しないこと。
- ④ 弱電流電線が雑音等により悪影響を受ける恐れがある場合には、弱電流電線にシールドケーブルを使用する等の適切な方法で配線すること。
- ⑤ 適合場所は紫外線のあたらない屋内。

5. 問い合わせ先

電路支持材：ネグロス電工株式会社 東京都江東区亀戸2-40-1 開発営業部 小林 研一

<http://www.negrosu.co.jp/>

TEL 03-3683-7175 FAX 03-5628-7134